

# つながり 価値をつくる

## 地域に根ざした「質の経済」へ

恵まれた自然風土を活かし、中川村は農業を主力に産業を拓いてきました。規模は小さくても、人と人、人とのつながり、関わり合うのが中川流地域経済の形態です。そこから村特有の価値が生まれてきます。



浦上明三さん。自宅横の桃畑にて

## 「農」が広がる

### 風土と技術を活かして

品質の良さ  
と多品種生産  
は中川農業の  
特徴。変化に  
富んだ地形に、  
果樹、野菜、水稲、きのこなどさま  
ざまな種類がつくられています。

中でも果樹栽培は中川農業の  
主力です。高橋昭夫さん(柏原)  
の果樹園にある樹齢90年余の  
大國光の古木は、その歴史的象徴  
といえるでしょう。大正3(191  
4)年に、高橋さんの祖父がりん  
ご栽培に適した土  
地を探して現在地  
に植栽したもので、  
以来3代にわたり  
生育されてきました。  
今も素朴な実を結  
びます。

伊那谷でりんごの  
経営的栽培は、大正  
4年にお隣の松  
川町で始まったとい  
われています。ちょ  
うど高橋さんの祖  
父が大國光の木を  
植えた翌年です。大  
國光の古木は村の



村のりんご栽培の発祥と発展を象徴する、樹齢90年余の大國光の古木。風雪に耐えて歴年の重みを負うように、その姿は威風堂々

りんご栽培の発祥を語るもので、  
その後の果樹栽培の成長発展を  
目にしてきたのです。  
浦上明三さん(小平)は、このよ  
うな先人が拓いた果樹栽培を受  
け継ぐ達人のひとり。「やって面  
白みがあるのはやっぱり果樹。こ  
んな実ができたならなどと考えな  
がらやっている。自分の力量が発  
揮できるところが楽しみ」とい  
います。とはいえ「毎年一年生」と達  
人はいたって謙虚。良いものをつく  
るポイントも「まず天気。中川は



代かき作業



山菜を味わう会



味噌づくり体験会

果物栽培に適しているので天気  
しだいです。あとは当たり前前の作  
業をきちんとこなすこと」と淡々  
と語ります。

駒澤通利さん(田島)は昔から  
旨い米として知られる田島米栽  
培の担い手。トラクター、田植機  
などを駆使し、機械化による大  
規模水稲栽培に取り組んでいます。  
減農薬栽培で15ヘクタールつくる  
ほか、地区営農組合からの作業  
も受託。恵まれた土地条件を活  
かし、付加価値の高い米をつくり  
たいといっています。

菌茸は果樹、米とともに中川  
農業の代表的な農作物。天候に  
左右されやすい農業にあつて、生  
産形態は施設栽培が特徴です。  
農事組合法人三幸の代表理事・  
樽澤春幸さんは、「資源循環型の  
農業経営をとおして、雇用と外  
貨獲得で地域に貢献し、読める  
農業、計算できる農業をめざした  
い」と意気軒昂に語ります。

### 作物づくりから「関係」づくりへ

いいものをつ  
くるといって生  
産技術力追求  
の一方で、村に  
は違う側面か  
ら農業に可能性を見出そうとす  
る人も増えてきました。

平成19(2007)年4月、村内



都市住民との交流は、将来の中川ファンづくりを見据えた長期的な取り組みでもある



は、農業をやりたい都市  
住民と、農作業の助っ人  
を頼みたい農家をつなぐ、  
村独自の事業です。村  
ではほぼ一年を通じて援  
農ボランティアを受け入  
れており、窓口は役場が  
担い、対応は個々の農家  
が直接行っています。  
中山晶行さん(三共)  
宅は、ファームサポーター  
の受け入れを始めて5年。  
「来てもらうようになっ  
て、仕事にプラスアルファ  
が生まれました。農業  
を楽しむ気持ちの余裕  
もできました」と妻の優  
子さん。農業の可能性  
を開いてくれるファーム  
サポーターを「新しい風」  
だといいます。

ファームサポーター事業  
の特徴は、「親戚や縁故  
関係と違う新しいおつ  
き合い」「金銭のやりと  
りがない関係」「足りな  
いところをお互いに補い合う関係」  
「仕事プラスアルファの価値を創  
り出す関係」などが挙げられます。  
村ではこのほか、農家と連携し  
てりんごの木オーナー制度や都  
会の子どもの体験学習受け  
入れなども行っています。

農家も軒が集まり、農家民宿な  
どに取り組むグリーンツーリズム  
ネットワーク「笑うちかたび」が  
結成されました。メンバー共通の  
思いは、交流の中から自分たちも  
地域も元気になること。地元  
の魅力を再発見し、郷土食や伝統  
文化を継承し、体験の場を提供

することで農の現場を多くの  
人を知ってもらうことが目標です。  
会の基調は「自分たちが楽しく」。  
ここに住む者が楽しむことで、訪  
れた人にもそれは地域の魅力に  
なつて伝播していきます。  
中川村が平成15年から取り組  
んでいる「ファームサポーター事業」